

2024年度定時総会・懇談会を開催 杉山新会長を選任



航空貨物運送協会（JAFANA）は、6月11日、東京・港区のグランドプリンスホテル高輪で、2024年度定時総会を開催しました。総会には、正会員112社（うち委任状提出社 51社）が出席し、改選期にあたりすべての理事・監事が選任され、2023年度収支決算が承認されたほか、2023年度事業概要、2024年度事業計画・収支予算などが報

告されました。総会では、新たに杉口広氏（OCS代表取締役社長）、桜田治氏（商船三井ロジスティクス代表取締役社長）、珍田昌一氏（日新常務執行役員）が理事に、そして佐々木基泰氏（ケイヒン航空代表取締役社長）が監事に就任しました。

総会後の理事会において新会長として杉山千尋氏（日本通運代表取締役副

社長）が選任され、前会長の岡本宏行氏（郵船ロジスティクス代表取締役社長）は、国際部会担当の副会長に就任しました。

総会後の懇談会では、鶴田浩久国土交通省物流・自動車局長と箭野拓士財務省関税局業務課長よりご挨拶いただき、脇谷謙一ANA Cargo代表取締役社長の音頭で乾杯が行われました。



杉山新会長 就任挨拶

長らく、対前年マイナス傾向の取り扱いが継続してきました。新年度に入り、日本発着の輸送には、足元、若干明るい傾向が見受けられますが、世界の航空貨物マーケットでは、より強い回復の兆しを感じられます。日本発着の荷動きの力強い回復を強く期待する一方で、業界としても、サプライチェーンの変化や地政学リスク等の各種影響を受けたモノの流れの変化に、より敏感に反応していく必要があるかと考えています。

こうした中、業界団体としての当協会がすべきこととして、航空貨物輸送の発展基盤を形成する観点から、人材育成のための教育活動、中でも、安全や保安関係の教育に、引き続き注力していきたいと考えております。安全関係では、昨年3月よりIATA公認の「CBTA プロバイダー」としての教育訓練事業を開始しました。さらなる内容の充実に努めるとともに、協会会員

企業のみならず、荷主企業の皆様に一層参加を呼びかけてまいりたいと考えております。

皆様ご案内のとおり、航空フォワーダー事業を巡っては、航空貨物の分野においても課題となる2024年問題や、IATAが導入を進めるワンレコードへの対応、さらにはSAF燃料の使用による環境負荷軽減、いよいよ具体化に向けて動き出す成田空港の新整備構想への対応等々、課題山積といえます。

会員各社の航空フォワーダービジネスの進展は、各社の企業活動により進められるものでございますが、業界団体の当協会としては、航空会社や関係業界の皆様との緊密な連携、関係当局のご指導もいただきながら、教育訓練活動や各種情報発信等を通じ、会員各社の取り組みを下支えすることができるよう、努めてまいります。今後とも、なにとぞよろしくお願いいたします。

6月11日に開催された2024年度定時総会、その後の理事会におきまして、会長に選任いただきました。

これまでは、協会副会長、国際部会の部会長を務めさせていただきましたが、今後は、岡本前会長をはじめ役員の皆様のご助言をいただきつつ、協会会長として、精一杯務めてまいり所存です。本年の定時総会・理事会において改選された新役員ともども、ご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、現下の航空貨物市場の情勢は、



岡本前会長 退任挨拶

のタイミングでもありました。物価高騰や経済活動の鈍化、海外景気の低迷等により、当協会会員が取り扱った日本発着の国際航空貨物輸送実績は、輸出入とも、期間を通じ対前年マイナス傾向の取り扱いが継続しました。新年度に入り、やや明るい兆しも見受けられますが、内外のサプライチェーンを巡る諸情勢の変化の中において、今後とも、航空フォワーダー事業が、きめ細かな物流サービスの提供を通じ、世界の隅々をつなぐという重要な役割を果たしていく必要があると考えております。

そのような中、当協会は、業界共通のプラットフォーム作りのための教育訓練活動を事業の重要な柱としております。在任中の2022年9月、当協会は、IATAから、危険物取扱教育に関わる「CBTA プロバイダー」としての認証をいただきました。昨年3月以降

は、同プロバイダーとして危険物講習会を開講しております。従来から実施している業界新入社員向けの基礎講習会や、IATA ディプロマ試験の事前講習会、航空保安関係の教育活動と並び、協会の教育訓練活動の中核となる講習事業として、重要な位置づけができたものと考えております。

アフターコロナの時代においても、航空フォワーダー事業は、さまざまな新たな課題への対応が求められています。このような中、経験ご豊富な杉山新会長にバトンタッチさせていただくことができました。私自身も、引き続き、協会副会長として、国際部門を担当させていただきます。微力ながら、引き続き努めてまいりますので、協会活動に対する変わらぬご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

会長退任にあたり、ご挨拶申し上げます。

6月11日に開催された2024年度定時総会をもって、2年間務めさせていただいた当協会の会長を退任させていただきましたこととなりました。この間、会員企業の皆様方、関係業界、関係官庁等の皆様方には、一方ならぬご指導・ご鞭撻をいただき、ありがとうございます。

さて、在任期間は、アフターコロナ

協会役員

理事 19 名 / 監事 2 名 (敬称略) (●は新任)

(2024 年 7 月 1 日現在)

協会役職	氏 名	会社名・役職
会長 (代表理事)	杉山 千尋	日本通運 (株) 代表取締役副社長
副 会 長 (代表理事・総合部会長)	鳥居 伸年	(株) 近鉄エクスプレス 代表取締役社長
副 会 長 (国際部会長)	岡本 宏行	郵船ロジスティクス (株) 代表取締役社長
副 会 長 (国内部会長)	恵谷 洋	ヤマト運輸 (株) 専務執行役員
副 会 長 (通関部会長)	谷村 和宏	(株) 阪急阪神エクスプレス 代表取締役社長
専 務 理 事	山本 博之	(一社) 航空貨物運送協会
理 事	原 学	インターナショナルエクスプレス (株) 代表取締役社長
理 事	筒井 達夫	NX クーリエサービス (株) 代表取締役社長
理 事	● 杉口 広	(株) OCS 代表取締役社長
理 事	多田 晴好	サンキュウ エア ロジスティクス (株) 代表取締役社長
理 事	● 桜田 治	商船三井ロジスティクス (株) 代表取締役社長
理 事	渡部工次郎	西濃運輸 (株) 執行役員国際部部長
理 事	藤松 正樹	セイノースーパーエクスプレス (株) 常務執行役員
理 事	宇高 圭一	西日本鉄道 (株) 常務執行役員
理 事	● 珍田 昌一	(株) 日新 常務執行役員
理 事	中谷 智	(株) ベガスグローバルエクスプレス 代表取締役社長
理 事	鶴澤 清雅	名鉄ゴールデン航空 (株) 代表取締役社長
理 事	黒梅 裕一	ロジスティードエクスプレス (株) 代表取締役社長
理 事	小島 朋子	(株) YDH・ジャパン 代表取締役社長
監 事	● 佐々木基泰	ケイヒン航空 (株) 代表取締役社長
監 事	堤 廣	国際空輸 (株) 代表取締役社長

国内航空貨物基礎講習会を開催

国内航空貨物基礎講習会を、2024 年 5 月 9 日 (木)・10 日 (金) の 2 日間にわたり JAFA セミナールームでの集合形式および WEB の併用にて開催をいたしました。昨年に引き続き WEB も併用して開催し、各社の新入社員を中心に全国各地から延べ 103 名の皆様にご参加いただきました。

一方、会場参加が 103 名中 16 名とコロナの時期から回復

傾向にあり、会場で講師の生の講義を受講いただく受講者も増えております。

今回の講義内容は、1 日目に国内航空貨物業界の動向、国内貨物・利用航空運送事業概要、約款の解説、運賃計算実務について、2 日目には国内航空貨物の危険物輸送、損害保険業務、航空保安対策について、2 日間計 6 項目について講義を行いました。

一部の講義にあたっては外部講師をお招きし、国内航空貨物業界の動向については ANACargo 様、損害保険業務については損保ジャパン (株) 様からそれぞれ専門的な立場からわかりやすく解説をいただきました。

また、国内航空貨物の危険物輸送についてでは、JAFA の危険物インストラクターに登壇いただき、危険物規則の解説の他、近年取り扱いが増えているリチウム電池やドライアイスの取扱いについて実務に即した講義をいただきました。

当委員会では、今後も国内航空貨物の発展に向けて国内航空貨物に従事する皆様への様々な講習会を企画してまいります。 (国内業務・教育委員会)



リチウム電池の種類



Cell セル (単電池)

「セル (単電池)」とは、単体で (1つのプラスと1つのマイナス電極) 電気化学ユニットに収められたもので、2つの端子間には電圧の差がある。

バッテリー (組電池)

「バッテリー (組電池)」とは、ケースや端子、マーキングや保護用デバイスなどで固定された、電子的に接続された2つ以上のセル (単電池) を指す。

(2) 単電池と組電池

単電池の例 (単体の電池)



組電池の例 (同じ種類の単電池を複数個パックにした電池)



IATA 認定資格試験について

2024 年 4 月以降実施しました IATA 認定資格試験（基礎コース・危険物コース）の結果を報告します。



基礎コース (Cargo Introductory Course)

2024 年 5 月	受験者数	合格者 (pass)	合格率 (注 1)	90 点以上の高得点者 (distinction)	高得点での合格者率	欠席 (No show)
基礎コース	90	78	86.7%	25	32.1%	4

注 1：欠席者含む合格率

※ 2024 年に入りまして基礎コースの受験者が減少傾向となっております。航空貨物取扱の基礎知識習得のためにも是非基礎コースの資格取得にチャレンジいただくようお願いいたします。

危険物資格取得コース (CBTA)

2024 年 5 月	受験者数	合格者 (pass)	合格率	90 点以上の高得点者 (distinction)	高得点での合格者率
7.1 コース	10	10	100.0%	9	90.0%
7.3 コース イニシャル	33	32	97.0%	24	75.0%
7.3 コース リカレント	20	20	100.0%	17	85.0%
7.2 コース	3	3	100.0%	3	100.0%
合計	66	65	98.5%	53	81.5%

2024 年 6 月	受験者数	合格者 (pass)	合格率	90 点以上の高得点者 (Distinction)	高得点での合格者率
7.3 コース イニシャル	16	16	100.0%	10	62.5%
7.3 コース リカレント	3	3	100.0%	3	100.0%
合計	19	19	100.0%	13	68.4%

危険物資格取得講習会につきましては、今後も奇数月と 7.3 イニシャルコースでは東京地区で偶数月にも開催しますので、是非多くの会員様従業員の方にご参加いただき、航空危険物取扱いの資格取得を目指していただきますようよろしくお願いいたします。

また、航空危険物を取扱う荷主様にも是非ご紹介いただき、航空危険物取扱いの資格取得を推奨いたしますよう合わせてお願い申し上げます。

資格取得に関する詳細につきましては、当協会 HP「一般社団法人航空貨物運送協会 - デイプロマ試験案内」をご覧ください、事務局宛にメール (kyoiku@jafa.or.jp) にてお問合せください。(国際教育委員会)

2024年春期国際航空貨物基礎講習会を開催

2024 年 5 月 30 ～ 31 日の間、国際教育委員会主催の春期国際航空貨物基礎講習会を開催いたしました。

本年も、春 (5 月) と秋 (10 月) の 2 回に分け開催し、5 月 30 日は、会場参加 49 名、オンライン参加 236 名。5 月 31 日は、会場参加 40 名、オンライン参加 79 名の合計 404 名の方に受講いただきました。(参考：2023 年春期講習会 380 名参加)

講義は、下記 7 つのテーマに沿って、JAFA 各委員会・JAFA 講師が担当し、航空貨物取扱いの基礎、通関業務および航空危険物取扱いの基礎について学んでいただきました。今回は春期では初めて国際宅配便業務についての講義を追加し、需要が高まる越境 EC を中心に講義を行いました。

終了後には、参加された皆様にアンケートをお願いし、このアンケート結果を参考に、秋 -2024 年 10 月 29・30 日に開催します国際基礎講習会でより充実した内容にて開催できるように準備してまいります。(国際教育委員会)



国際航空貨物基礎講習会の講義メニューおよび担当講師

講習会講義メニュー	担当講師
成田空港の紹介、航空貨物の現状 (30分)	事務局
航空貨物概論 (60分)	ANA Cargo 様
輸出入航空貨物業務 Part I (60分)	国際教育委員会
輸出航空貨物実務 Part II (60分)	国際教育委員会
国際宅配便について - 越境 EC (30分)	国際宅配便業務委員会
通関業務について / 基礎編 (60分)	通関業務委員会
危険物取扱について / 基礎編 (60分)	JAFA 危険物インストラクター

Airport Cargo Eye

「2024年問題対策協議会」の活動について



成田国際空港株式会社（NAA）
貨物営業部貨物営業グループ
マネージャー

横塚 雅史



2024年問題対策協議会の様子

平素より、成田国際空港の運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

当空港における国際航空貨物取扱量は、コロナ禍の2021年には開港以来最高となる約259万トン記録しましたが、その後は海運を含むサプライチェーンの平常化、国内他空港への旅客便の復便、羽田空港への国際旅客便の移管といった影響から、2023年の取扱量は約187万トンと、2010年以降で最低となっております。

しかしながら、当空港の上屋では成田発着便だけでなく、羽田空港を含む、国内他空港発着便で搭降載される貨物も多く取り扱われており、当空港貨物地区には引き続き、全国から多くのトラックが出入りしています。

残念ながら、当空港においては、繁忙曜日・時間帯における上屋からの輸入貨物引き取り時に、トラックの長時間待機（以下、「荷待ち」という。）が発生しています。これまでも、荷待ちの解消に向け関係者の努力がされながらも、契約、指示系統の複雑な国際航空貨物においては、抜本的な解決が難しく、長年の問題となっております。

このような状況の中、本年度より、自動車運転者の労働時間などの改善のための基準及び時間外労働の上限規制に伴う、所謂「2024年問題」が始まっております。

当然ながら、2024年問題は空港だけの問題ではなく、日本全体の問題ではありますが、国内最大の国際航空貨物輸送拠点である当空港としても、この問題に対して役割を果たすべく、成田航空貨物運送協会様、東京通関業会成田支部様、一般社団法人千葉県トラック協会様、上屋事業者様及び当社からなる、「2024年問題対策協議会」を立ち上げ議論を行っていま

す。

荷待ちの問題は、ともすれば上屋の作業が遅い、フォワーダーの指示が遅いといった個社、業種に対して責任を求める議論になりかねません。しかしながら、当空港における荷待ちの問題については、特定の業種に問題があるというのではなく、荷主を含め空港内外を跨いだ構造的な問題であると認識しています。

その解決策を探るために、2024年問題対策協議会においては、それぞれの業種が一堂に会し、問題の見える化を行うことを重点に、“本音の”議論を実施しています。本年2月から5月までの議論を踏まえ、短期的な対応として、本年中の導入を目標に、トラックの来場時間の事前予約、呼び出しを行う「トラックドックマネジメントシステム（輸入）」の開発を行っていくことが合意されました。

当空港では、2023年4月より、輸出貨物を持ち込むトラックを対象に「トラックドックマネジメントシステム（輸出）」を導入しております。こちらは輸出上屋前におけるトラックの路上駐車に起因する貨物地区構内混雑の解消を主目的とするシステムとなっており、千葉県トラック協会様からも好意的な評価をいただいております。

これに対し、輸入においては、一定時間におけるトラックの受け入れ可能枠（スロット）を設定した上で、トラックドライバー自身が上屋の空き状況を確認し、トラックドライバー自身が来場するスロットを選択するという、荷待ち時間の短縮に特化したシステムとしていくことを予定しております。

当然ながら、荷待ちの問題はシステムの導入といった短期的対応や、空港内の事業者の努力だけで完全な解決ができる

問題ではないと認識しております。中長期的には、荷主を含めた社会全体に協力を求めていく必要があり、そのためには、国際航空貨物が日本経済、国民生活に重要な役割を果たす社会インフラであることを、社会全体にご認識頂く必要があると感じております。

当社も、社会インフラの一端を担う国際空港の運営者として微力を尽くしてまいりますので、引き続きご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



輸入トラック待機の様子（天浪トラック待機場）

FIATA 2024 HQ Meeting 開催

2024年度 FIATA HQ Meeting が、FIATA 本部の所在地であるスイス・ジュネーブにあるジュネーブ国際会議センター (CICG) にて開催されました。

60 か国の各国の FIATA 会員を中心にフォワーダー関連協会や各種コンサルティング会社、教育訓練機関からの専門家など合計250名以上の参加した会議となりました。

今会議のテーマは「Uniting for Resilience」となっておりコロナ禍以降、地域紛争や異常気象が原因となる「運河危機」の発生や米国・バルチモア港でのコンテナ船と橋梁衝突事故等国際的なサプライチェーンが脅かされている中、如何にフォワーディング業界が結束すべきかを中心に各セッション及びワークショップが行われ、当協会の国際交流員より委員1名が代表として出席いたしました。

今回は、オープニングセッションとして IATA のトップとなる Mr. Walsh と FIATA 事務局長との座談会から始まり、

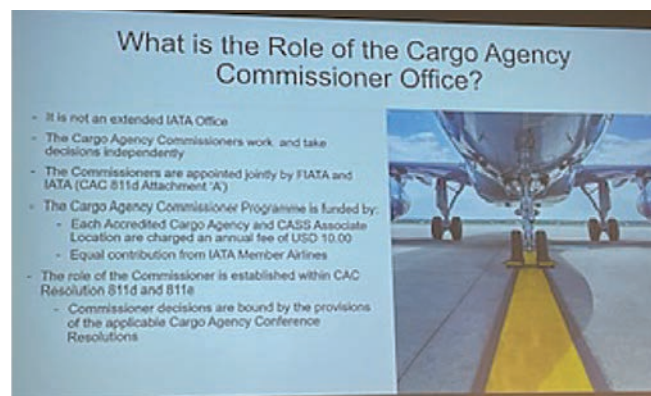
複合輸送委員会 (MTI)、安全保安諮問委員会 (ABSS)、法律問題諮問委員会 (ABLM)、税関関係委員会 (CAI)、情報技術諮問委員会 (ABIT)、FIATA Region Asia Pacific (RAP)、FIATA Region Americas (RAMs)、航空貨物委員会 (AFI) 等の各委員会を始め eBL 利用促進のアライアンス (FIT Alliance) や FIATA Logistics Institute's Session (FIATA 物流委員会会議) の活動内容の説明がありました。

また、会議の最後に FIATA がフォワーディング業界の次世代育成のための支援プログラムである GSCC (Global Supply Chain Classroom) における優秀賞の表彰式も行われ、FIATA と参加者が双方向で各国・地域のフォワーディング業界が抱える問題や課題等を情報共有できる場が設けられただけでなく、過去の会議にはなかった新たな取組を紹介するプログラムもありました。

・当協会に関する委員会として RAP (FIATA Region Asia Pacific) および AFI (Airfreight Institute) の会議内容は下記の通りとなります。

● RAP (FIATA Region Asia Pacific)

(1) 次回2025年度 RAP 開催国であるインド航空貨物代理店協会 (ACAAI: Air Cargo Agents Association of India) より



プレゼンテーションが行われました。

(2) RAP 副議長選出(立候補2名)

1) 中国国際貨運代理協会 秘書長 李志明

2) Vietnam Logistics Business Association (VLA)

Mr.Minh Nguen Duy

WEB 投票の結果、ベトナム代表が当選しました。

(3) ワークショップ

GD1: リスクマネジメント GD2: 気候変動への対応 の2つのワークショップが開催され、リスクマネジメントに参加しました。各国ともにフォワーディング業界への就業者減少を懸念しており、インターンシップ制度の導入や大学生を対象とした講習会の実施等の取組が紹介されました。

(4) 2024年度 RAP 開催地(2024年7月11~12日)であるインドネシア・バリのプレゼンテーションがホストであるインドネシア商工会議所(Indonesian Chamber of Commerce and Industry)より実施されました。

● AFI (Airfreight Institute)

「The Cargo Agency Commissioner Office」“貨物代理店委員会”についての説明が行われました。

この組織はフレイト・フォワーダーと CASS 利用業者の権利を擁護する IATA とは関係のない組織であり貨物代理店委員会は独立して活動し、意思決定を行い、また委員は FIATA と IATA が共同で任命する(CAC 811d Attachment「A」)と定められているとのことです。

特に IATA より IATA 代理店除籍通知書が発行された場合の救済を手助けしてくれる組織とのことでした。

・ Cargo Agency Commissioner Website

<http://www.cargo-agency-commissioner.aero/index.php/en/>

最後に、2024年9月23~27日にパナマにて開催される FATA World Congress のホストよりプレゼンテーションが行われすべての今回の FIATA2024 HQ Meeting のプログラムが終了いたしました。(国際交流委員会)

新規会員紹介



Hellmann Worldwide Logistics (正会員)



[代表者] ボエイ ユン ペン

[本社] 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-11-6
森紙業神田ビル8階

[電話] 03-5839-2683 [URL] www.hellmann.com

[事業内容] 1. 航空運送取扱業務 2. 海上運送取扱業務 3. その他、上記に関わる付帯業務

ヘルマンワールドワイドロジスティックスはドイツ北西部のオスナブリュックにおいて1871年に創業以来、最大級の国際物流業者の1社へと成長してまいりました。

私たちは航空輸送、海上輸送、陸上・鉄道輸送及びコンタクトロジスティックスにより、お客様からの高いご要望に対して、常に適切なソリューションをご提供するとともに、最大限

の透明性と、より効率的なサプライチェーンを実現するため、未来志向のデジタルサービスを追及しております。

私たちのビジョンである「For the better. Together.」には、人類が環境に配慮し、生活の質が向上し、社会的公平性が現実のものとなるより良い世界の実現に向かってともに努力し歩んでいこうという思いが込められて

います。より良い世界は、人類が皆手を取り合うことによってのみ実現できるものです。それは、持続可能な経済発展によって促進され、創造的な精神と革新によって推進されると確信しています。

私たちヘルマンファミリーは国際物流を通じて世界中の人々と経済に情熱的な関心を抱き続け、絶え間なくこの未来を追い求めます。



新世紀海運株式会社 (準会員)



新世紀海運株式会社
NEW CENTURY SHIPPING Co., Ltd.

[代表者] 代表取締役 顧俊

[本社] 〒105-0022 東京都港区海岸1丁目9-1浜離宮インターシティ11階

[電話] 03-5425-7380 [URL] <http://www.shinseiki-kaiun.co.jp/company.html>

[事業内容] 海上運送業及びその代理業務、海陸空複合運送事業の代行業、貨物取扱事業、前記各号に附帯関連する一切の業務

当社は2007年6月に創立して以来、中国を主としたアジア航路を強みとして国際複合一貫輸送サービスを提供しております。取扱品目はプラスチックに始まり廃金属・自動車・機械・電子部品・食料品・日用品・家具類など徐々に品目を拡大しつつ日々

サービスの向上に努めております。

2014年12月台湾の大手総合物流フォワーダー DIMERCO EXPRESS GROUP との業務提携により、海外ネットワークを駆使した幅広い物流ニーズに対応する事ができるようになりました。

今後は航空貨物業界への知見を広げる事で、目まぐるしく変化する国際物流のさらなる発展に貢献できるよう尽力してまいります。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

あなたの 3 コードは？

～ JAFA 活動を支える皆様に、お仕事、経歴、趣味、ペット、故郷の自慢話、お勧めグルメ、これからの夢、得意のレア語学、今ハマっていること、推しの人、自由に、3点ほど語っていただきます。～



理事

(ロジスティードエクスプレス株式会社)

黒梅 裕一

3コードという事で数字の3に絡んだものが無いかと考えたところ、会社生活において3度海外駐在をしておりますので、それぞれの海外駐在時代の一番の観光地についてお話したいと思います。

まず最初の赴任地はマレーシアのジョホールバルという都市でシンガポールとマレーシアの国境沿いに位置する都市です。今でこそ大きな都市になりましたが私の駐在時代はまだ村という感じで非常にのんびりとした場所でした。まだ独身でしたのでいろいろな観光地に遊びに行きましたがその中で一番はティオマン島という小さな島です。マレーシア東岸

のメルシンという港町からフェリーで2時間半で到着します。当時、島のほとんどが手付かずで観光地としてはまだあまり知られていなかったのも、海はガラスの様に透き通りサンゴ礁とホホワイトサンドのビーチがとても綺麗です。普段の忙しい日常から離れたい時などあれば、ティオマン島で2-3日ゆっくり過ごすことができおすすめです。

2度目の赴任地は、アラブ首長国連邦のアブダビ首長国です。世界一高いビルがあるドバイは非常に有名ですが、アブダビはその隣の国になります。30台前半の年齢で体力もあったと思うのですが、夏の気温は軽く50度を超え湿度もほぼ100%が毎日続き室温が20度前後の事務所の中と外を2-3度行ったり来たりするだけでぐったりしてしまうほど体力を奪われます。そういう過酷な赴任地でしたのでその当時はハードシブ休暇と称して休暇も多く取る事が出来たので中近東のいろいろな観光地を見てきました。その中で一番のおすすめはヨルダンです。ペトラ遺跡というインディージョーンズの3作目の最後の聖戦の舞台となった場所で非常に神秘的で必見ですし、世界で最も低い海拔マイナス400mに位置する死海は塩分濃度が高く本当に体が浮かんでしまう



アブダビの海岸で

不思議な湖でした。

3度目の赴任地はアメリカです。住んだ町はニュージャージー州の田舎町で家族でのんびり過ごしました。アメリカも観光地はたくさんあるのですがその中で一番はナイアガラの滝です。私は夏と冬それぞれ行きましたが夏は大量の水が豪快に流れる景色を見られますし冬は滝全体が凍って非常に幻想的な景色を見ることが出来ます。

以上3コードとなりますが皆様の今後の旅行の参考にして頂ければと思います。

最後に今後も JAFA のメンバーの一人として微力ながら活動してまいりますので引き続きよろしくお願いいたします。



情報委員会 委員長

(株式会社阪急阪神エクスプレス)

平田 茂

早いもので JAFA の情報委員会に出入りさせていただくようになってから10年以上が過ぎ、今年の3月に還暦を迎えました。元々あまり趣味が多い人間ではありませんが、一つだけ、ギターを50年近く続けております。

父親が銀行員だったこともあり、子供の頃は転勤で九州と関西をうろろしていましたが、実家が奈良に落ち着いてから兄の影響で始めた趣味です。ご多分に漏れずフォークギターの演奏から入ったのですが、高校の頃に友人からエレキギターを借りたのをきっかけに大学ではバンドを

組んで演奏しておりました。社会人になってからは演奏する機会が減ったものの、海外駐在時代には地元のセッションに参加させていただいたこともあり、言葉が分からなくても何か気持ちが通じるという貴重な体験をさせていただきました。

現在では数年に一度大学時代の友人などとスタジオに入ったり、最近では学生時代から憧れていたバンドのメンバーの方(ブコの演奏家です)と年に一度程度手合わせしていただく機会に恵まれたり、細々ではありますが続けていられることに感謝しております。

長く続けていても私の場合個人の演奏の技量向上には限界がありましたので、20年ほど前からはギターの改造などに手を付け始めました。小さなパーツをひとつ交換するだけでも全く音の響きが変わったり、なかなか奥の深い世界です。いろいろといじっているうちに余ったパー



ツでギターが作れそうになってきましたので、数年前には有り合わせの材料を使って自作ギターなども作成しました。還暦になったのを機に、今年はなんとか赤いギターを作りたいと考えております。

いつの間にか自宅には使えるもの・使えないものを含めて20本程度溜まってしまい、これからの終活に向けてどうやって減らしていこうか悩む日々です。

記者懇談会開催

4月19日 LEVEL XXI（大手町）において専門紙記者との2024年の懇談会、懇親会が開催されました。

懇談会には専門紙8社から計8名の記者の出席がありました。

また、JAFA 側からは会長、副会長、各委員会委員長および事務局・広報委員会委員が出席しました。

懇談会では、各分会の2024年度の活動計画について部長から発表がなされた後、質疑応答を行いました。

出席した各記者からは、今後の荷動きの見通し、トラックドライバーの2024年問題、デジタル化、教育関係等業界でも関心の高い問題について

活発な質問があり、会長、副会長、専務理事が回答しました。

前回より開催場所が変更になりましたが、スムーズに執り行われました。

懇親会も和やかな雰囲気の中、記者の方々との相互理解と交流を深めることができました。（広報委員会）



委員会等活動報告

4月	8日	国際交流委員会	第1回委員会開催：FIATA HQ Meeting 参加について
	9～11日	国際教育委員会	CBTA 7.3 イニシャルコース開催（東京開催）（5名合格）
	12日	広報委員会	JAFA ニュース 130号（春号）最終編集会議、記者懇談会・懇親会最終打合せ 他
	15日	通関業務・情報合同委員会	EPA 原産地センターとの通関セミナー事前打合せ、関税局との意見交換会について 他
	16～18日	国際教育委員会	IATA ディプロマ認定試験・事前講習会開催（東京・大阪 85名参加）
	17日	政策委員会	JAFA セミナー「物流 DX について」振り返り、次回セミナーのテーマについて、他
	19日	広報委員会	記者懇談会・懇親会開催
	23日	保安委員会	A-2/CSD の統合について BIAC と打合せ 他
	23日	JAFA-BIAC 共同研究会	2024年度危険物講習会の開催について、危険物パンフレットの更新進捗状況確認 他
	23～26日	国際交流委員会	FIATA HQ Meeting 参加（スイス・ジュネーブ）
	24日	国際業務委員会	第1回委員会開催：デジタル化・ペーパーレス化への取組み
	24日	広報委員会	JAFA ニュース 130号（春号）発行
5月	8日	国際教育委員会／国内業務・教育委員会	CBTA 7.2 コース（3名合格）／国内危険物講習オンライン開催（6名参加）
	9～10日	国内業務・教育委員会	国内航空貨物基礎講習会
	13日	国際教育委員会	第1回委員会開催：国際基礎講習会について他
	13日	国際宅配便業務委員会	第1回委員会開催：EC 事業者に対する啓発活動他
	14～16日	国際教育委員会	CBTA 7.1 コース開催（東京・大阪開催）（10名合格）
	15日	政策委員会	次回開催 JAFA セミナーについて 他
	17日	空港対策委員会	地方空港視察について、委員長の互選について 他
	20～23日	国際教育委員会	CBTA 7.3 イニシャルコース開催（東京・大阪開催）（32名合格）
	24日	広報委員会	JAFA ニュース 131号（夏号）、定時総会記者会見担務確認、ノベルティーについて 他
	27～29日	国際教育委員会	CBTA 7.3 リカレントコース開催（東京・大阪開催）（20名合格）
	29日	国内業務・教育委員会	国土交通省航空局航空戦略室との意見交換会
6月	30～31日	国際教育委員会	国際基礎講習会開催（404名参加）
	3日	国際交流委員会	第2回委員会開催：FIATA HQ Meeting 出張報告
	3日	JAFA-BIAC 共同研究会	2024年危険物ベーシック講習会について、危険物パンフレットの更新について 他
	4～6日	国際教育委員会	CBTA 7.3 イニシャルコース開催（東京開催）（19名合格）
	13～15日	国際交流委員会	FAPAA ECM/AGM 参加（オーストラリア・パース）
	14日	通関業務・情報合同委員会	春季国際基礎講習会実施報告、通関セミナー他、財務省関税局との意見交換会開催
	18日	国際業務委員会	第2回委員会開催：デジタル化・ペーパーレス化への取組み
	19日	通関業務・情報合同委員会	通関セミナー 「EPA 原産地規則の概要」開催
	25～27日	国際教育委員会	IATA ディプロマ認定試験・事前講習会開催（東京・大阪 44名参加）
	28日	国際交流委員会	FIATA 定時総会参加（オンライン）

2024年度 懇談会



鶴田浩久 国土交通省
物流・自動車局長



箭野拓士 財務省関税局業
務課長



株式会社 ANA Cargo 脇谷謙一代表取締役社長

